

地域共生社会を支援する

第3回

日時 2024年3月16日(土曜日) 14:00~17:00

会場 高知県立大学 永国寺キャンパス 教育研究棟 A101 講義室

第1部

14:00~ 学長挨拶

14:10~ 基調講演「社会的処方：まちとのつながりで人が元気になる方法」

西 智弘 先生 (川崎市立井田病院・医師、一般社団法人プラスケア代表理事)

(休憩 10分間)

第2部

15:20~ シンポジウム「市民がつながる地域共生社会」

●15:20~ 事例発表① 池 香 氏 (津野町地域包括支援センター 保健師)

●15:50~ 事例発表② 西本 久美香 事務局長 (特定非営利活動法人ふくしねっと CoCo てらす)

(休憩 10分間)

●16:30~ 意見交換会

進行 小林 秀行 (高知県立大学 看護学部准教授)

17:00 閉会



高知県立大学10年戦略

戦略3: 地域共生社会を支援する実践的な教育・研究

三つのセンターの機能が新機構で一つにまとまり
“リデザイン”プロジェクトに向かって動き出す

高知県立大学

高知県立大学は地域共生社会を支援します

国は、令和6年度から今までの健康日本21の取組を踏まえて「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動(健康日本21(第三次))」の推進を厚生労働省告示第207号(R5.5.31)で発出した。

国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②個人の行動と健康状態の改善、③社会環境の質の向上、④ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり、の四点が示されている。

高知県は人口減少や少子高齢化に加え、昨今のコロナ禍などにより人との接触機会が減ってきたことで地域とのつながりが弱まってきている。最近では、ヤングケアラー・ダブルケア・8050問題といった複雑化・複合化した課題が増えている。

地域共生社会を支援する



“リ・デザイン”プロジェクトとは

□このような課題を解決するためには、保健・医療・福祉機関だけでなく、分野を超えたつながりを意識し、住民などを巻き込んだ地域全体での取組みは**地域共生社会**を実現する上で大変重要となります。

□高知県立大学は、既存の三つのセンター機能の一つにまとめた新たな機構を立ち上げ、地域共生社会の実現を支援する実践的な教育・研究を行います。これらを通じて、地域社会のあらゆる面が**“リ・デザイン(発展・再構築)”**されることを目指します。

□従って私たちは**“リ・デザイン”プロジェクト**に取組みます。

地域を**リ・デザイン**する

コミュニティを**リ・デザイン**する

まち並みを**リ・デザイン**する

人のつながりを**リ・デザイン**する

仕事を**リ・デザイン**する

働き方を**リ・デザイン**する

文化を**リ・デザイン**する

祭りを**リ・デザイン**する

遊びを**リ・デザイン**する

認知症について「ゆるやかに学べるカフェ」（認知症カフェ）

土曜の永国寺カフェ

Eikokuji Cafe on Saturday since 2023



「地域共生社会を支援する」

高知県立大学連続講座

招 聘 講 師

- I. **近藤 克則** 先生（千葉大学予防医学センター・社会予防医学部門・教授）2023年12月15日
講演「自然に健康になれるまちづくり」
シンポジウム「産官学民連携による健康まちづくり」
- II. **近藤 尚己** 先生（京都大学医学研究科・社会健康医学系専攻・国際保健学講座・社会疫学・教授）2024年1月23日
講演「社会的処方：全人的ケアを進めるための地域連携の仕組みづくりの現状と展望」
- III. **西 智弘** 先生（川崎市立井田病院・医師、一般社団法人プラスケア代表理事）2024年3月16日
講演「社会的処方～まちとのつながりで人が元気になる方法」
シンポジウム「市民がつながる地域共生社会」



西 智弘 先生プロフィール

川崎市立井田病院・腫瘍内科・部長
一般社団法人プラスケア代表理事

- ✓ 2005年北海道大学卒。室蘭日鋼記念病院で家庭医療を中心に初期研修後、2007年から川崎市立井田病院で総合内科／緩和ケアを研修。その後、2009年から栃木県立がんセンターにて腫瘍内科を研修。2012年から現職。現在は抗がん剤治療を中心に、緩和ケアチームや在宅診療にも関わる。また一方で、一般社団法人プラスケアを2017年に立ち上げ代表理事に就任。「暮らしの保健室」「社会的処方研究所」の運営を中心に、地域での活動に取り組む。
- ✓ 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。
- ✓ 著書に『だから、もう眠らせてほしい(晶文社)』『社会的処方(学芸出版社)』などがある。



基調講演

「社会的処方

まちとのつながりで

人が元気になる方法」

川崎市立井田病院・医師

一般社団法人プラスケア代表理事

西 智弘 氏

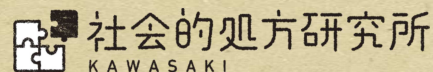
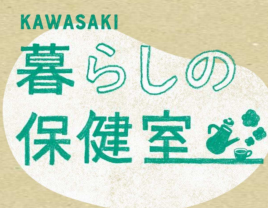
..... Memo

.....

社会的処方

～まちとのつながりで人が元気になる方法

一般社団プラスケア代表理事/川崎市立井田病院
西智弘



- 2005年 北海道大学医学部卒
室蘭日鋼記念病院初期研修（家庭医療）
- 2007年 川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター
- 2009年 栃木県立がんセンター 腫瘍内科
- 2012年 川崎市立井田病院かわさき総合ケアセンター
（緩和ケア/在宅医療/腫瘍内科）～至現在
- 2017年 一般社団法人プラスケア代表理事 ～至現在



1：孤独・孤立がなぜ問題になるのか

どの人たちが、要介護状態になりにくいのか？

	運動サークルに 参加	運動サークルに 参加しない
積極的に運動する	◎	
あまり運動しない		×

Kanamori S, et al. PLoS One.2012;7:e51061.

どの人たちが、要介護状態になりにくいのか？

	運動サークルに 参加	運動サークルに 参加しない
積極的に運動する	◎	△
あまり運動しない	○	×

Kanamori S, et al. PLoS One. 2012; 7: e51061.

そもそも、健康とは？

健康の3本柱

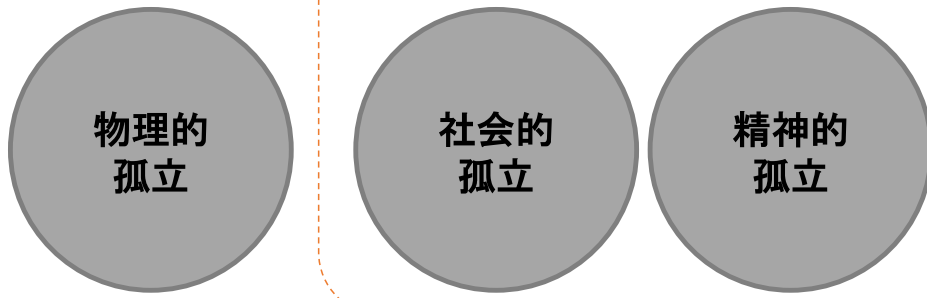


WHO憲章

身体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり
単に疾病又は病弱の存在しないことではない。

「孤立」という現代病

死亡率↑、認知症↑、転倒↑、自殺↑



Julianne Holt-Lunstad, et al. PLoS Med. 2010; 7: e1000316

Sakurai R, et al. Int Psychogeriatr. 2019;31:703-711.

社会的処方研究所
KAWASAKI

日本における孤立・孤独対策

- 2020年 政府「骨太の方針」に孤立・孤独対策が記載（～2023年）
- 2021年 孤独・孤立対策担当大臣、孤独・孤立対策担当室設置
- 2022年 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム設置
- 2023年 孤独・孤立対策推進法 公布
- 2024年 孤独・孤立対策推進法 施行

→コロナ禍による社会の分断および孤立の問題によって国の取り組みが加速した。

→逆に言えば、孤立・孤独の問題はまだ本格的に取り上げられるようになって日が浅い。

社会的処方研究所
KAWASAKI

孤独・孤立対策推進法

1. 基本理念

- ①孤独・孤立の状態は人生のあらゆる段階において何人にも生じ得るものであり、社会のあらゆる分野において孤独・孤立対策の推進を図ることが重要であること。
- ②孤独・孤立の状態にある者及びその家族等の立場に立って、当事者等の状況に応じた支援が継続的に行われること。
- ③当事者等に対しては、その意向に沿って当事者等が社会及び他者との関わりを持つことにより孤独・孤立の状態から脱却して日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるようになることを目標として、必要な支援が行われること。

2. 国等の責務等

孤独・孤立対策に関し、**国・地方公共団体の責務、国民の理解・協力、関係者の連携・協力等を規定する。**

孤独・孤立対策推進法

3. 基本的施策

- ・孤独・孤立対策の重点計画の作成
- ・孤独・孤立対策に関する国民の理解の増進、多様な主体の自主的活動に資する啓発
- ・相談支援の推進・関係者の連携・協働の促進
- ・当事者等への支援を行う人材の確保・養成・資質向上・地方公共団体及び当事者等への支援を行う者に対する支援
- ・孤独・孤立の状態にある者の実態等に関する調査研究の推進

4. 推進体制

- ・内閣府に特別の機関として、**孤独・孤立対策推進本部（重点計画の作成等）を置く。**
- ・地方公共団体は、関係機関等により構成され、必要な情報交換及び支援内容に関する協議を行う**孤独・孤立対策地域協議会を置くよう努める。**

2017年：一般社団法人プラスケア立ち上げ

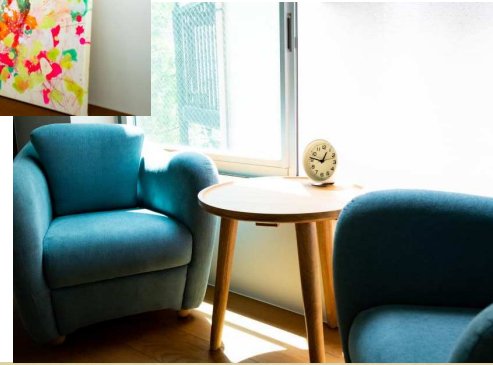
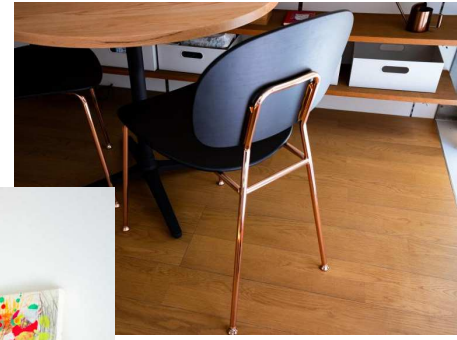
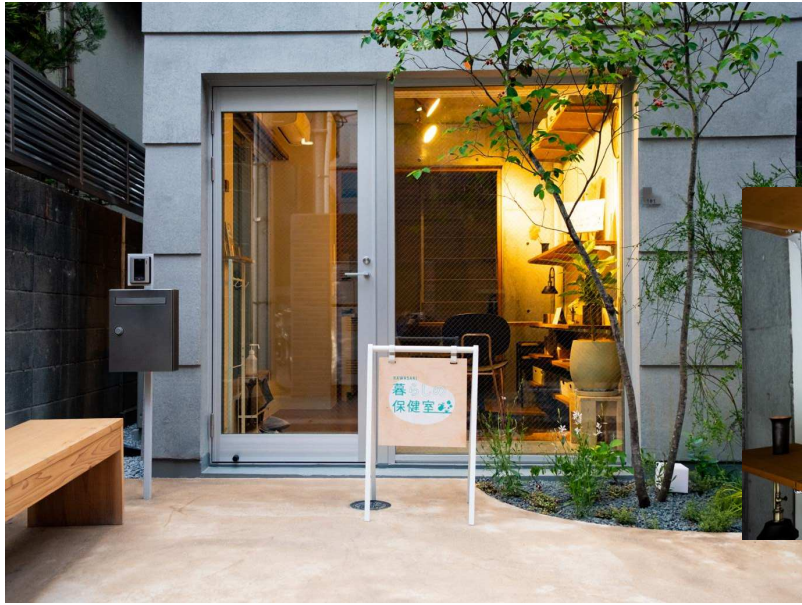


がんと診断されたとき、社会や友人と切り離され、孤立する患者たちがいることに悩む：診察室・病院では解決できない課題
→川崎市中原区で「暮らしの保健室」を立ち上げ

暮らしの保健室とは



病院に行くほどではないちょっとした悩みや、がんや認知症など大きな病気を抱えてどうやって生きていけばいいの？など病院では相談しにくい悩みを、町なかで気軽に相談でき、つながれる場



新拠点できました！
川崎市中原区上新城2-7-5セシーズンイシイ23A101
JR南武線武蔵新城駅 徒歩2分



病気になっても安心して暮らせるまち



コミュニティナースを中心とした
相談支援

※コミュニティナース：病院でも診療所でも保健所でもなく、働く場所は「あなたのそば」というナース

病院や医療制度などの枠を超えて、医療者と気軽につながれる
相談があってもなくても、ふらっと立ち寄れる「保健室」がある環境

→保健室を、もっと社会的孤立に対しアップロードできないか？

孤立への処方箋 = 社会的処方

薬で人を健康にするのではなく

人と地域とのつながりで

人を元気にする仕組み

例 元・花屋さん
80代男性



今までは半年前に亡くなった奥さんがあちこち連れ出していた。今は外に出なくなりました。ため眠れなくなった...というストーリー。

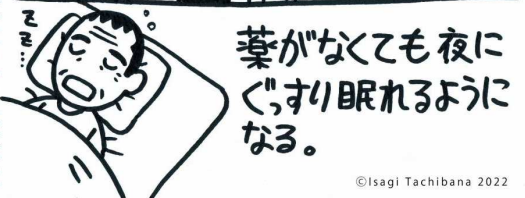
✕ ダメな医者の例



△ 少し気のきいた医者例



◎ 社会的処方のある世界



イギリスにおける社会的処方

- ・ 1980年ごろから、各地域で社会的処方の取り組みが始まった。
- ・ 2000年台に入り、イギリスNHS（National Health Service）の白書内で社会的処方について言及。
- ・ 2016年には社会的処方に関する全国的なネットワークが構築され、イギリス全体で100以上の社会的処方の仕組みが稼働している。

社会的処方の効果

- ・ 孤独や社会的孤立の改善
- ・ 不安や抑うつ軽減
- ・ 自己効力感の向上
- ・ 救急の利用や病院への紹介の減少
- ・ 医療コスト削減



2：社会的処方の実践

社会的処方の基本理念

- ・ 人間中心性 person-centeredness
- ・ エンパワメント empowerment
- ・ 共創 co-production

人間中心性 person-centeredness



エンパワメント empowerment



共創 co-production



社会的処方研究所
KAWASAKI



<https://www.dancewellishikawa.com/>

- = 芸術活動であり、治療、リハビリ、セラピーを主目的とするものではありません
- = パーキンソン病と共に生きる人々を筆頭に、子どもから大人まで、年齢や経験に関わらず、どなたでも参加できます
- = 全ての参加者を「ダンサー」と呼びます
- = 芸術的な環境で開催し、ダンサーの創造力を刺激します
- = 表現方法が正解であるか不正解であるかを問うものではありません
- = 継続的に開催しながら地域に根ざすことを目指します

社会的処方研究所
KAWASAKI



ダンサー・中村さんと、パーキンソン病をもつ
Aさんとのやりとり

「Aさんの手足の動かし方がとても『面白い』と思います」

「僕にとってはこれの何が面白いのかわからないけど、君には僕の動きが面白く見えるんだね」

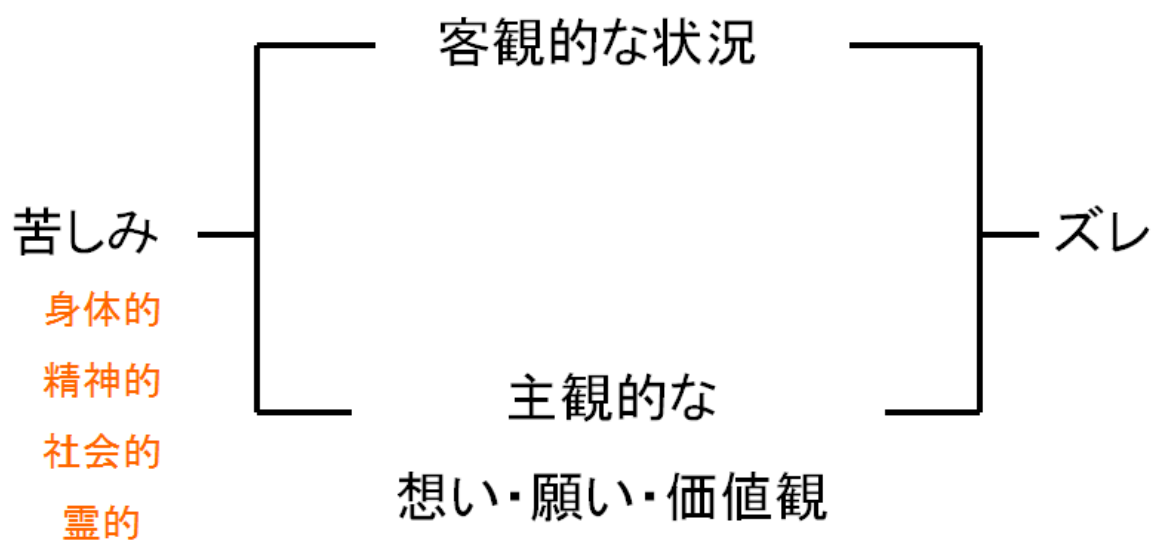
→Dance Wellに参加し続けることで、表現の幅が広がってきた。

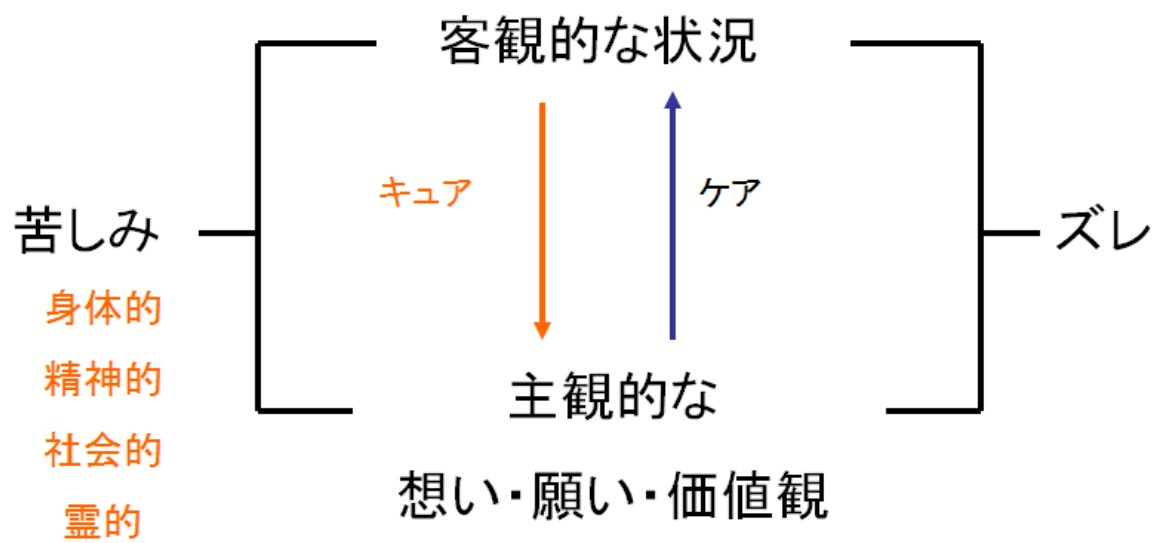
→中村さんが企画したダンスの映像作品にも参加

⇒映像作品を見た奥さんから手紙

「夫が病気になって、家でも夫を見ていて嫌になっていたけど、最近はそれが『かわいい』と思えるようになりました」

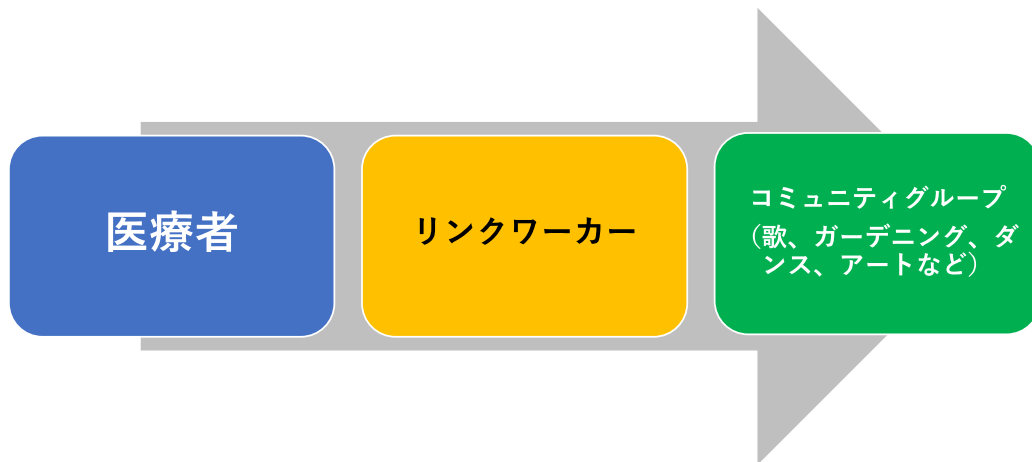
<https://www.dancewellshikawa.com/>



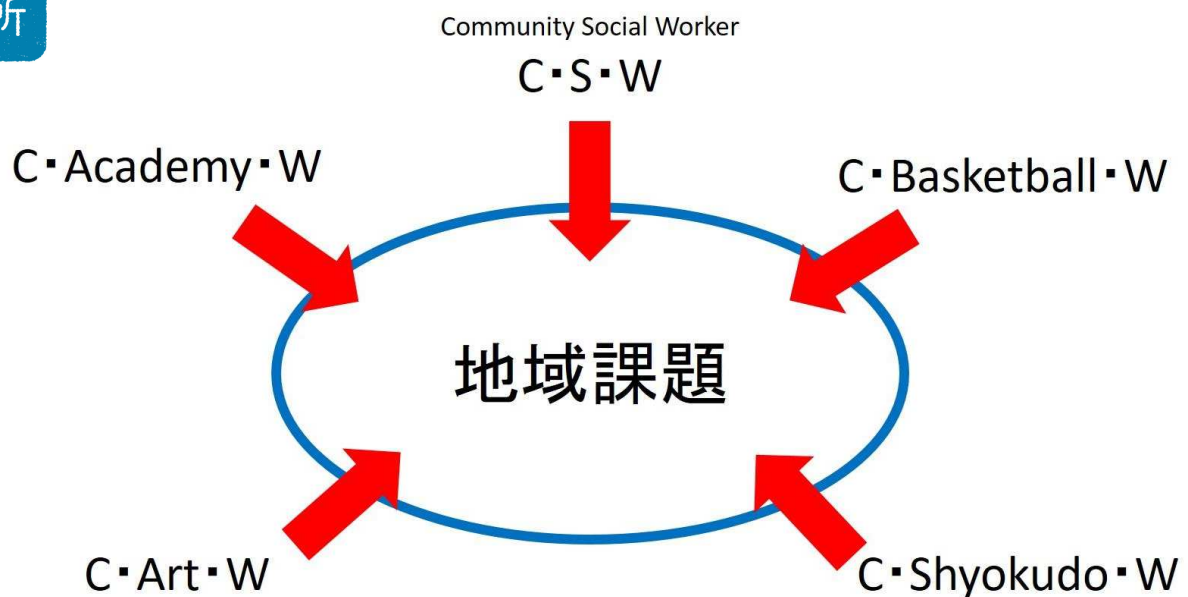


3 : リンクワーカーの重要性

社会的処方の要「リンクワーカー」

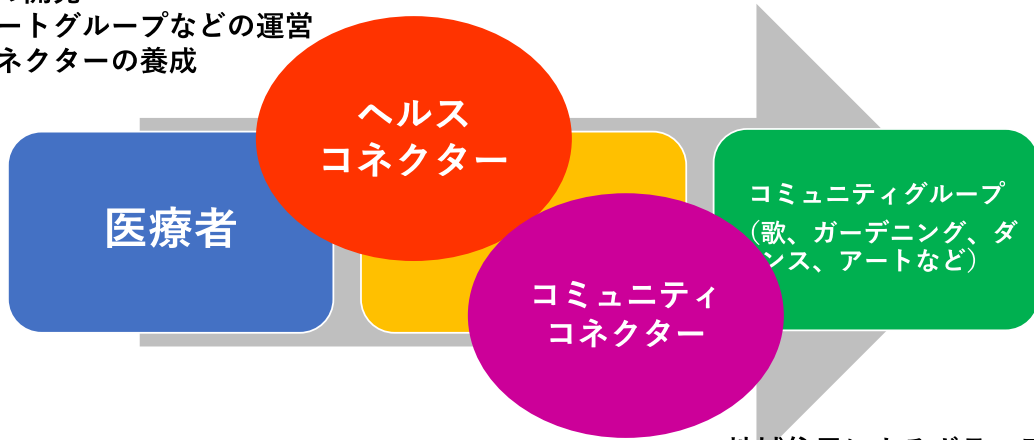


社会的処方を文化にする



イギリス・Frome

- ・社会資源の収集、整理
- ・新たな地域資源の開発
- ・多様なピアサポートグループなどの運営
- ・コミュニティコネクターの養成



- ・地域住民によるボランティア
- ・地縁や関心縁によるつながりへの道案内
- ・ヘルスコネクターと協働

まとめ

社会的処方未来

- ・社会的孤立は、都市部を中心に今後10年の課題になる
→社会的処方は孤立を解決し、健康度向上と医療費削減に寄与する可能性がある
- ・病気や障害があったとしても、「そのままが良い」が当然の社会＝ケアを地域に広げていく
- ・社会的処方を文化にする→日本においても公・民とも様々な活動は既にある。問題なのは「横のつながりに乏しい」こと。橋渡しをするリンクワーカー的役割を果たす機能が各地域に必要（コミュニティナース、暮らしの保健室、コミュニティコネクターを養成していく）。

参考資料

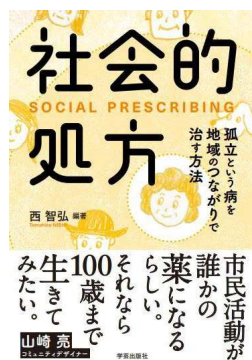
社会的処方研究所オンラインコミュニティ



- ・いつでもどこでもオンラインで最新の情報収集が可能！
- ・オンラインコミュニティ限定の勉強会：毎月1回ドイツとつないで世界の最新トピックについてディスカッション
→社会的処方の実践は、事例をたくさん知っている方が有利

※市民活動している方、自治体職員などに特にお勧め

<https://camp-fire.jp/projects/view/77042>



書籍『社会的処方』

2024年2月に新刊発売
『みんなの社会的処方』

<https://pluscare.thebase.in/>



シンポジウム

「市民がつながる

地域共生社会」

..... Memo

.....

事例発表①

「『もうちょっと居ろっや
津野町』を目指して」

津野町地域包括支援センター

保健師 池 香 氏

..... Memo

.....

『もうちょっと居ろうや津野町』を目指して

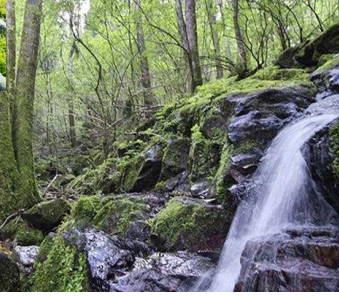
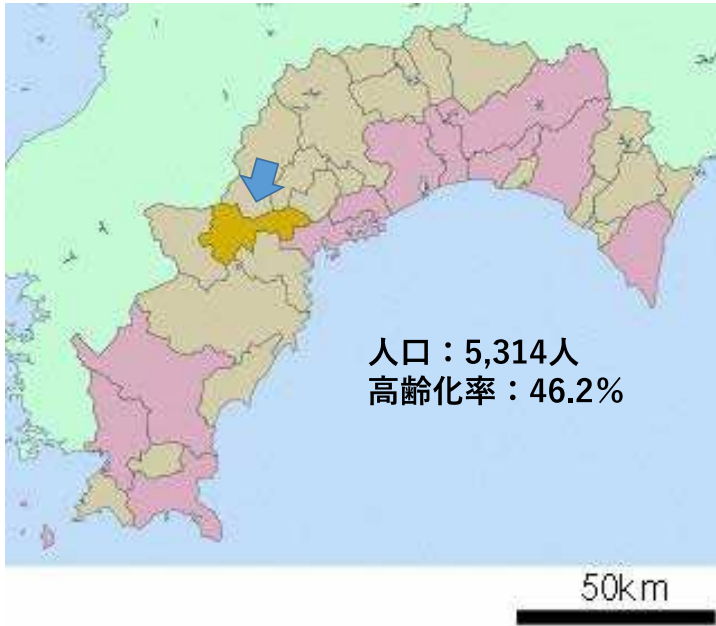


津野町地域包括支援センター
池 香

目次

1. 津野町の概要
2. 町ぐるみで介護予防
地域サロン支援
3. 目指す町づくりの模索
スローガン設定
「おい」を肯定的に捉える住民啓発
4. 今後の取り組み

1 津野町の概要

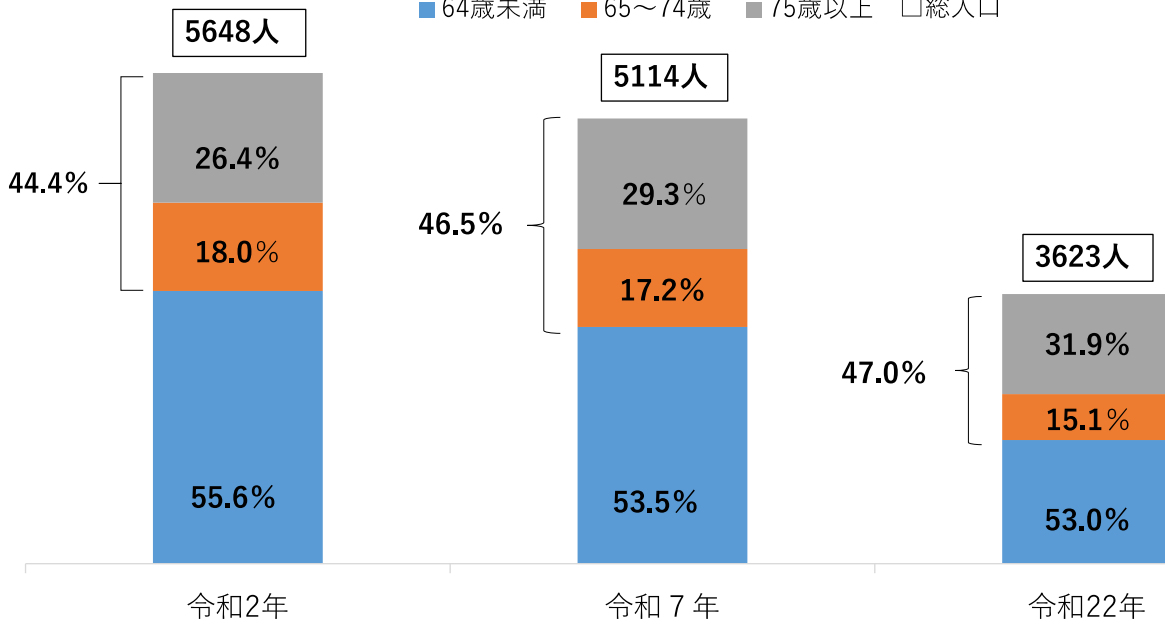


3

津野町の概要

津野町の総人口と高齢化率

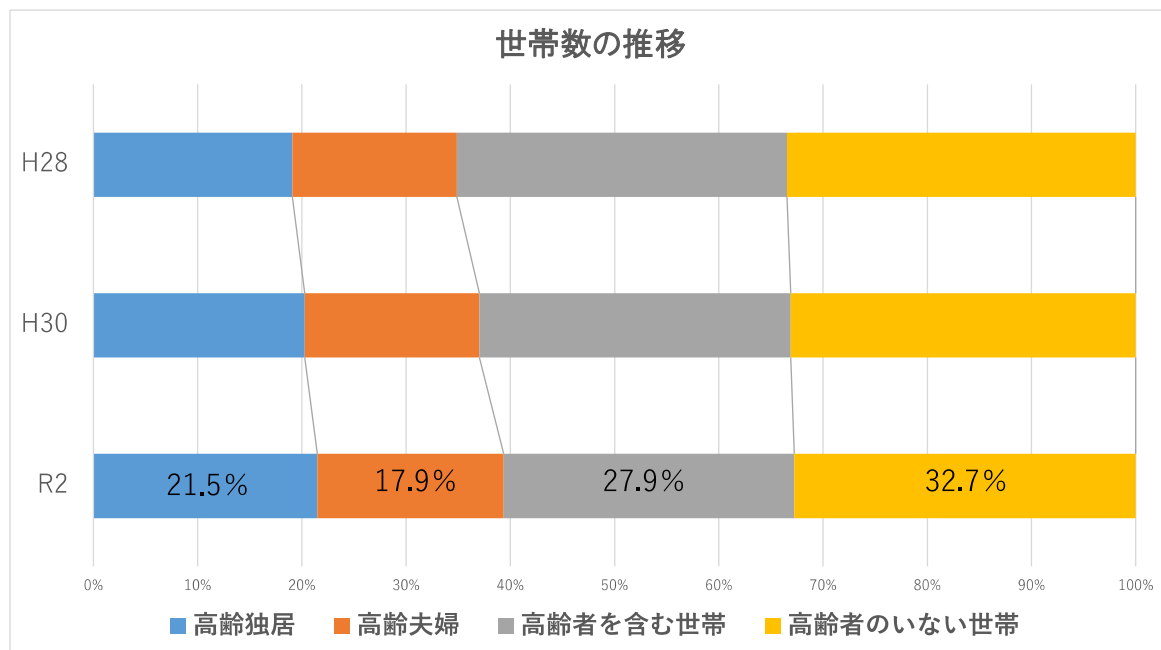
■ 64歳未満 ■ 65～74歳 ■ 75歳以上 □ 総人口



人口は減少するが高齢化率は増加
特に後期高齢者率が増加

出典：第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

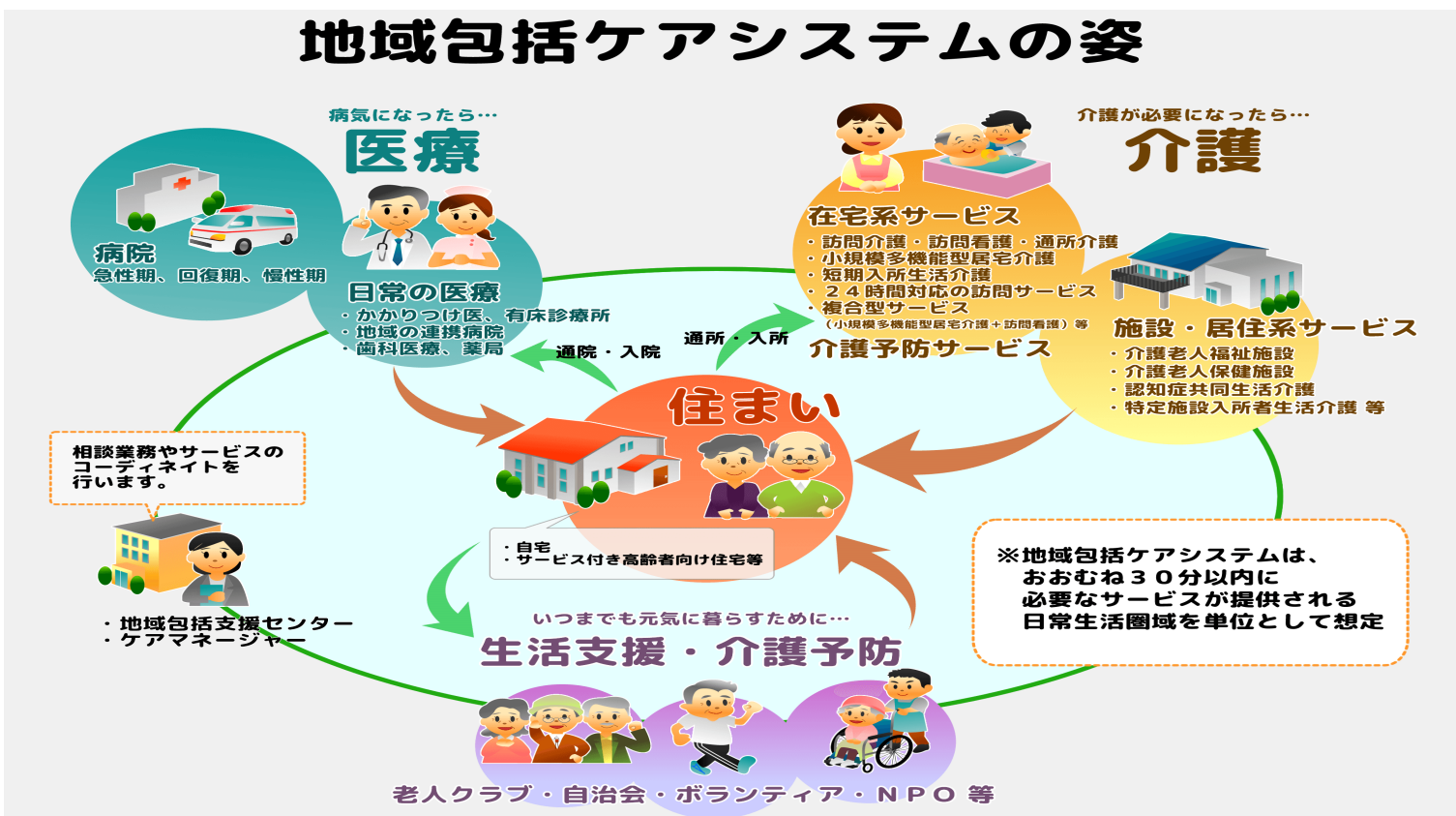
津野町の概要



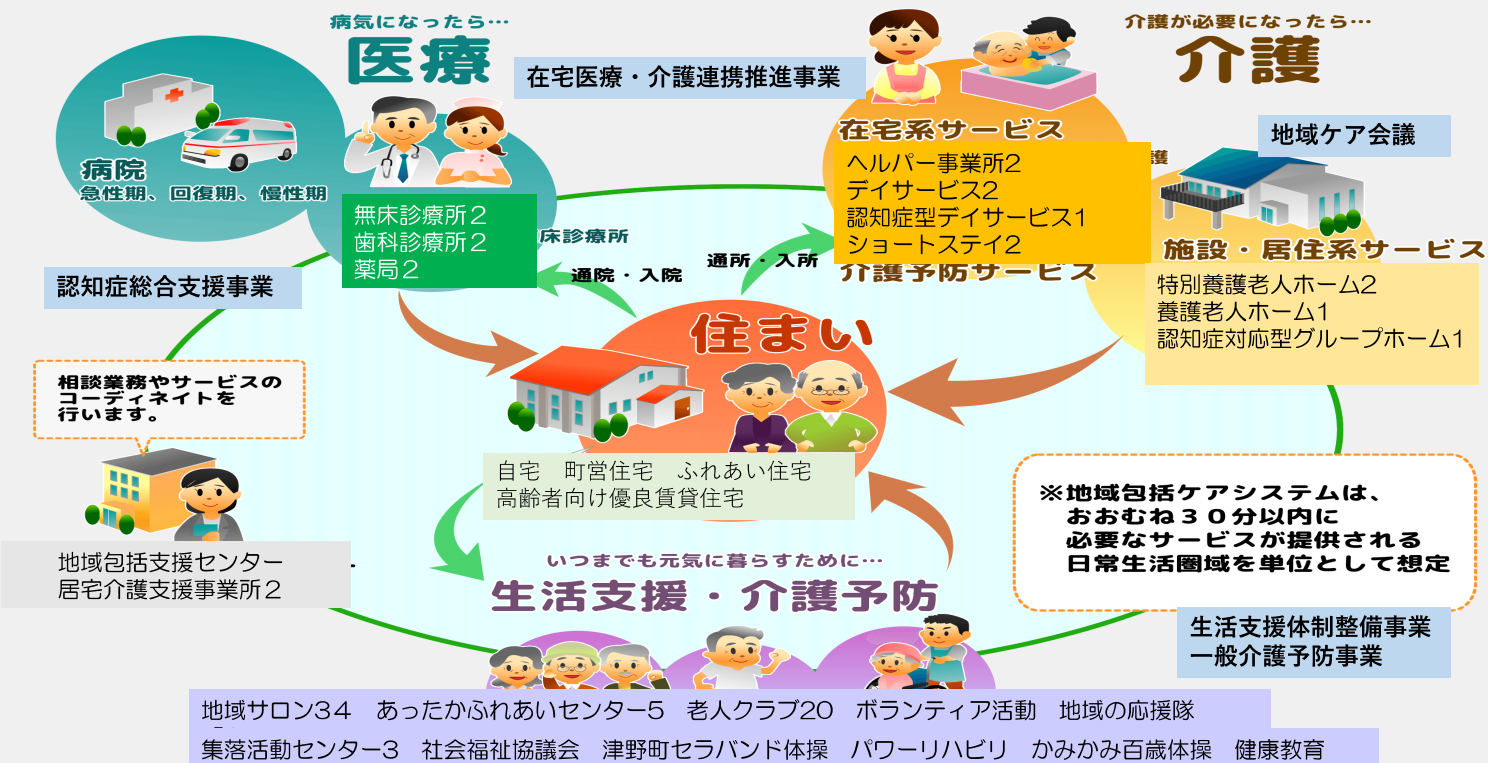
高齢独居世帯・高齢夫婦世帯が増加
 ↑
 家庭での介護力が弱い

出典：第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画

地域包括ケアシステムの姿



津野町地域包括ケアシステムの姿



津野町包括が行う高齢者支援

自助力を高める

- ・体力 生活力の維持(一緒に知恵出し 情報提供)
- ・家族の役割を一緒に考える(ひとつできることを提案)

共助力を育む

- ・民間資源を積極的に高齢者へ情報提供
- ・近所、友人、地域とのつながりを意識して情報収集・提供
- ・社会交流の場を支援(地域サロン あったかふれあいセンター)

公助・介護サービスの質維持向上

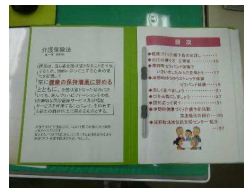
- ・自助力を意識した支援
- ・共助資源を情報収集し、活用できないか検討
- ・自己研鑽、事業所研鑽

町ぐるみで介護予防

キーワード:住民力

自分で介護予防

介護予防手帳を使った健康教育
介護予防教室で介護予防活動のきっかけづくり



みんなであつまって介護予防

地域サロン(34ヶ所)やあつたかふれあいセンター、集いの場を使った
津野町セラバンド体操やかみかみ百歳体操の実施



介護予防活動を応援

専門職が地域サロンを訪問し、健康教育や運動指導を実施
あつたかスタッフに技術支援



9

町ぐるみで介護予防(地域サロン)

町内34か所の地区で活動している集いを中心とした住民主体の活動

(参加者)

高齢者がほとんどだが、長期休暇や地区行事時には
子どもや壮年者が参加する地区もある。

・実人数(R4年度):475人⇒65歳以上人口の19.2%

(活動頻度)

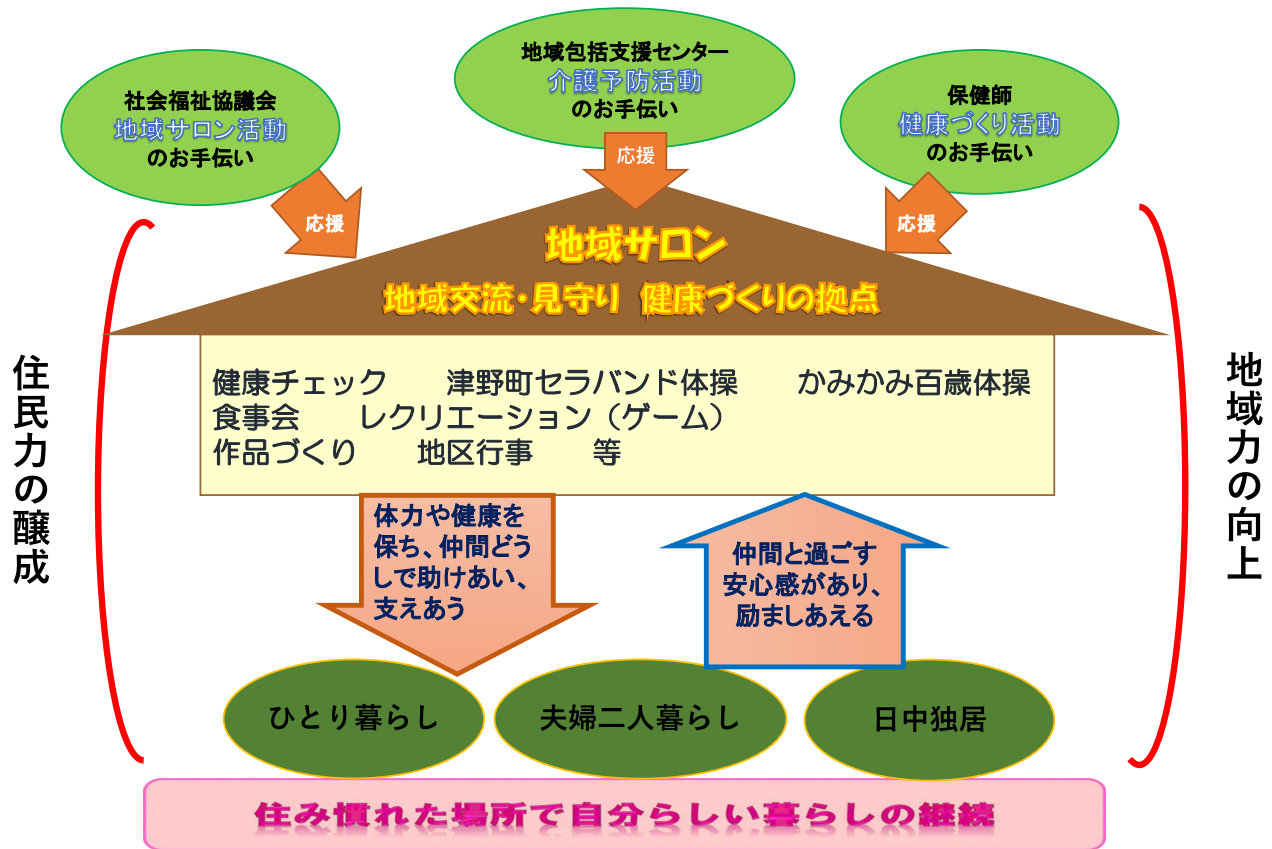
週1回～年数回まで様々

(活動内容)

各種体操(津野町セラバンド体操 かみかみ百歳体操 ラジオ体操)

レクリエーション 手工芸 食事会 各種講座





目指す町づくりの模索

R3年度

高齢者の暮らしに関する取り組みを見直す機会を得る

高齢者やその家族、地域が津野町で暮らし続けることに
漠然とした「不安」を持っている

不安を軽減していくには…

スローガン『もうちょっと居ろうや津野町』

「こういう状態になったら自宅生活は難しい」という固定概念を変える
周りが「もうちょっと居ろうや。」と言ってくれる町になりたい



! 「老い」を肯定的に捉える住民啓発

まず高齢者に話してみよう。(地域サロン・あったかふれあいセンター)

物忘れが始まったら自宅での生活は難しい…。

年がいったき、なんちゃあできなくなった…。

近所に迷惑をかけたらいかん…

『もうちょっと居ろうや津野町』を目指して

「**老い**」を肯定的に捉える＝自分らしい暮らし

【目標】

- ①参加者が今の暮らしが自分にとっての健康的な暮らしであると再確認できる
- ②参加者が、自分の生活について肯定的に表現できる
- ③参加者の間で互いの考えを理解する

【対象】

津野町高齢者の集い10か所(地域サロン・あったかふれあいセンター)

【内容】

- ①「健康」の捉えなおしと高齢期の発達段階の説明
- ②「自分らしい暮らし」をケイパビリティ(～をすることができる能力)から考え自分自身を見つめなおす。(アンケート記入)
- ③言葉に出して参加者同士で共有する。

マン
パワー
高知
県立
大学

仲間のいいところ、自慢できるところが共有できたのがうれしい。自分を認めてもらった感じ。

みんなに自分の想いを聴いてほしい。話したい。

数年後に再度講話を聞いて、自身の気持ちの変化を比べたい。

高齢者の身体や暮らしに関する話題はネガティブな印象が強い。でも今回の講話は「老い」を前向きにとらえることができた。



『もうちょっと居ろうや津野町』を目指して

「老い」を肯定的に捉える取り組みの今後の展開

①独居・高齢世帯で暮らす高齢者の今後について、地域はどう感じているだろうか→**集落活動センター等にインタビュー**

②日常生活圏域ニーズ調査等の分析

高齢者の暮らしや健康に関する特徴を洗い出す。

(業務で感じる高齢者イメージと調査結果との突合)→**高知県立大学の協力**

③高齢者と離れて暮らす家族に向けた情報やメッセージの発信



事例発表②

「土佐清水市で

暮らし続けていくために」

特定非営利活動法人

ふくしねっとCoCoてらす

事務局長 西本 久美香 氏

..... Memo

.....

「地域共生社会を支援する」シンポジウム

土佐清水市で暮し続けていくために



特定非営利活動法人 ふくしねっとCoCoてらす
西本 久美香

目次

- 1.わがまち土佐清水について
- 2.特定非営利活動法人として「ふくしねっとCoCoてらす」の設立
- 3.動き出して見えてきた課題と取り組み
- 4.課題から取り組んだ事業
- 5.ふくしねっとCoCoてらすの強みと今後の取り組み

1.わがまち土佐清水について

高知県西南端

温暖な気候、自然豊か

空港から一番遠い市（3時間半～4時間）



人口・・・11,902人 高齢化率・・・51.6%

（令和6年1月31日現在）

<特徴>

伝統的な文化や習慣、地区財産を持つ自治会が多数残っている。

いきいきサロン・・・各地区の集会所（50区）

運動教室・・・各地区集会所（44地区）



住民同士の関わりが多い

<課題>

- ✿・・・ 少子高齢
- ✿・・・ 人口減少・人口流出
- ✿・・・ 人材不足（専門職等）
- ✿・・・ サービス（介護保険・障害福祉）不足
- ✿・・・ 独居の増加
- ✿・・・ 家族関係の変化
- ✿・・・ 移動手段（バス・タクシー）の減少

清水で暮すために何が出来る？



- ・足が痛いけん、外にはよう出ん！掃除もようせん！
 - ・友達もおらんなって、話をする人がおらん！
 - ・買い物も、一人ではよう行かん！
- などなど……



元気であること

出来ない事のお手伝い



介護予防

住民同士の助け合い



人とのつながり

2.特定非営利活動法人として「ふくしねっとCoCoてらす」を設立

土佐清水でみんなと暮りたい



特定非営利法人
ふくしねっとCoCoてらす

✿設立

平成30年3月15日

✿開所

平成30年4月1日

✿ふくしねっとCoCoてらす

相談支援事業所

平成30年4月1日

✿平成30年度

職員2人

ふくしねっと

♡ ふくしのネットワークで助け合いましょう



CoCoてらす

♡ あなたの居るココを照らします

♡ 個々を照らします

♡ あなたの心を照らします

当然ですが・・・ 開設当初は

ふくしねっとCoCoてらすは、誰にも知られていません。

事業名	平成30年度	令和元年度	令和2～4年度	令和5年度
生活支援サポーター養成研修事業	→	→	→	→
要支援者在宅生活サポート事業	→	→	→	→
高齢者生活支援サポート事業	→	→	→	→
認知症見守り支援事業	→	→	→	→
施設介護ボランティア	→	→	→	→
障害者相談支援事業	→	→	→	→
指定特定相談支援事業	→	→	→	→
地域生活支援拠点事業		→	→	→
法人後見事業		→	→	→
福祉農園		→	→	→
あったかふれあいセンター事業				→
土佐清水市在宅医療・介護連携推進事業				→
成年後見・あんしんサポート事業				→

3.動き出して見えてきた課題と取り組み

動き出して見えてきた課題 ①

ボランティアなどの登録者（平成30年度）

社会福祉協議会各種ボランティア登録者・・・延べ922人

認知症サポーター・・・565人

何故、手伝ってもらえない？



- ・自分ごととして考えられない？
- ・私がしなくても誰かがしてくれる



動き出して見えてきた課題 ②

時間のある人に頼んだらいい！と思ったが・・・

何故、時間はあるのに研修は受けてくれない？



- ・ボランティアには興味がない？
- ・自分の趣味など楽しんでゆっくりしたい？



動いてもらうためには、どうしたらいい？

- ✿・・・現状の理解（自分ごとにする）
- ✿・・・「みなさん」へのお願いから「あなた」へのお願いに
- ✿・・・不安事はすぐに解決する
- ✿・・・CoCoてらすへの信頼を高める



養成研修会・フォローアップ研修会の充実・普段からの関わり

4.課題から取り組んだ事業と成果

<課題：ヘルパー不足>

<事業内容>

<成果>

生活支援サポーター養成事業
要支援者在宅生活サポート事業
高齢者生活支援サポート事業

①養成研修（2日×3回）②登録
③フォローアップ研修（10回）
④コーディネート ⑤派遣

・登録89人（実働41人）
・サポーターの介護予防（役割）
・45分から60分未満（報酬1,000円）

<外出困難、認知機能低下、サービス拒否>

認知症高齢者見守り支援事業

①養成研修（1日×2回）②登録
③フォローアップ研修（3回）
④コーディネート ⑤派遣

・登録135人（専7人）（実働54人）
・見守り支援員の介護予防（役割）
・60分（報酬500円）（専門1,000円）

<介護施設の人手不足>

施設介護ボランティア推進事業

①養成研修（1日×2回）②登録
③フォローアップ研修（3回）
④コーディネート ⑤派遣

・登録47人（高校生16人）
・ボランティア同士の交流

<相談支援事業所不足>

障害者相談支援事業
指定特定相談支援事業

- ①相談対応（訪問、来所）
- ②計画相談作成

- ・相談対応（約20件/月）
- ・計画相談 約25件（令和5年度）

<障害児者の重度化・高齢化 「親亡き後」>

地域生活支援拠点事業

- ①支援機関連携研修会
- ②市民対象研修会③当事者の勉強会
- ④広報啓発（冊子全戸配布）
- ⑤実態把握調査（サービスを使っていない3障害の方）

- ・支援機関の顔の見える関係づくり
- ・当事者同士のつながり
- ・年一度の訪問を続けることで、困った時の相談機関として認識

<身寄りの居ない方の増加>

法人後見事業

- ①後見2人②保佐2人③補助1人

- ・本人・親族の安心
- ・施設サービス事業所の負担軽減

<ひきこもり、障害者等の楽しみの場がない>

福祉農園

- ①さつまいも、ジャガイモ植え付け作業
- ②収穫作業
- ③産業祭出店

- ・作業体験
- ・交流

<住民誰もが自由に交流できる場所がない。ちょっとした困りごとを相談するところがない。>

あったかふれあい
センター事業

- ①集い（介護予防体操、放課後支援等）
第2週土曜（レインボーカフェ）
第3週土曜（スマイルカフェ）
第4週土曜（オレンジカフェ）
- ②相談、訪問、つなぎ
- ③生活支援

- ・子ども、高齢者、障害者、認知症の方、家族、様々な方が集まることが出来る
- ・片付けや電池交換など、ちょっとした支援
- ・連携機関へのつなぎ

<福祉人材の不足によりサービス提供が不安定。身寄りのない方への支援に関係者が苦悩。>

土佐清水市在宅医療・
介護連携推進事業

- ①在宅医療多職種連携協議会設置
1/月（コア会議として開催）
- ②医療・介護関係者の情報共有
- ③在宅医療・介護提供体制の構築
- ④市民公開講座
- ⑤関係機関の研修会
- ⑥在宅支援相談室の設置
- ⑦資源マップ作り、情報発信の強化

- ・本人・親族の安心
- ・施設サービス事業所の負担軽減

<頼れる人がいない。入院、入所などの手続きが出来ない。死んだ後のことが心配>

成年後見・あんしん
サポート事業

- ①見守りサービス
- ②安心サービス

- ・実施要綱、審査会要綱
契約書等作成中

住民と一緒に取り組んで気づいたこと

✿役割の重要性

「有り難う」「助かる」「また、来てね」 ⇨ 自分を必要としてくれる人がある (原動力) ⇨ 元気でいたい (介護予防)

✿経験が活かせる

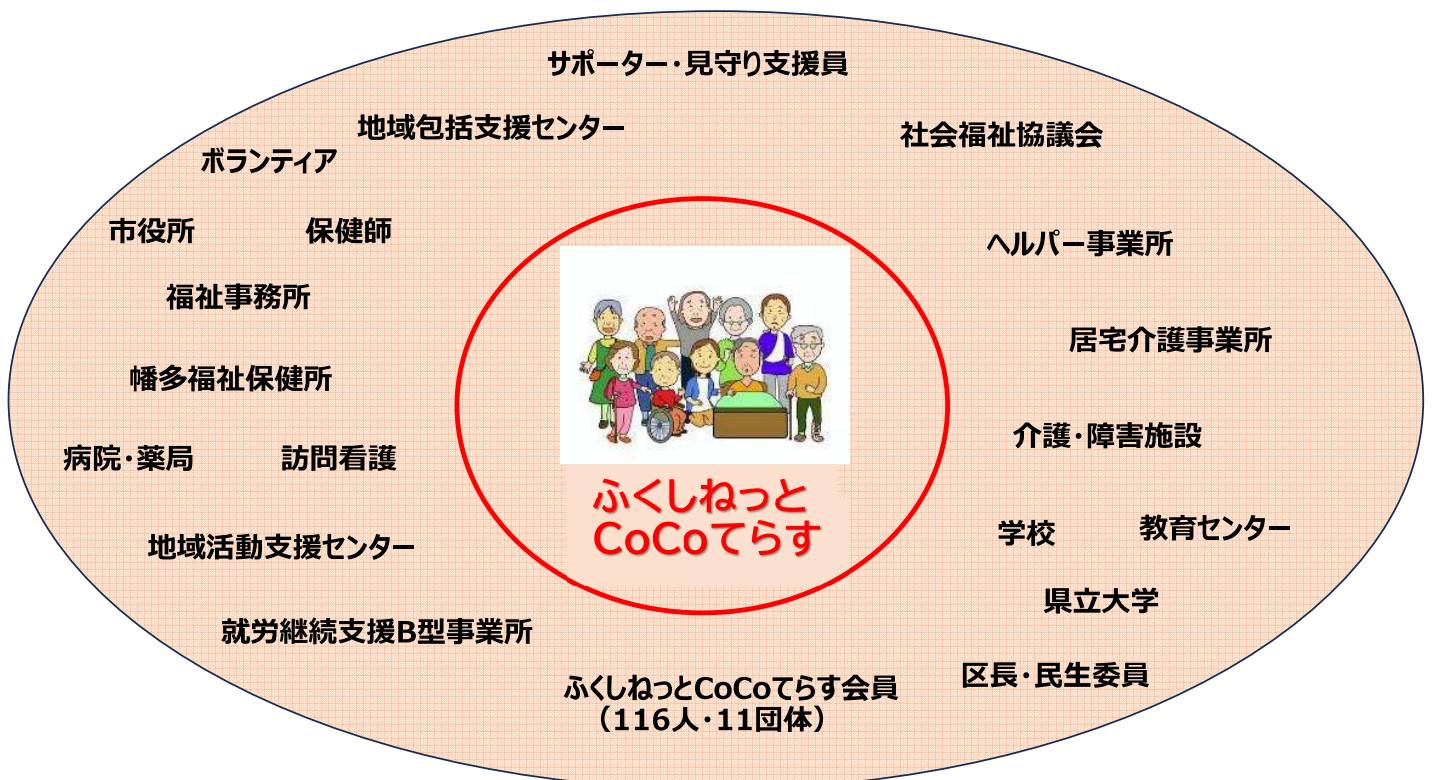
✿専門職でない良さ

自信がない ⇨ 何でも報告する ⇨ 状況がわかり、早めの対応が出来る。

対等な関係 ⇨ 利用者のプライドが保てる

✿しっかりサポートすれば、可能性無限

4.ふくしねっとCoCoてらすの強みと今後の取り組み





職員が楽しくないと人を楽しく出来ない
楽しくないと人は集まらない



10時・15時 コーヒータイム（妄想タイム）



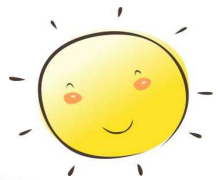
残業なし



誕生日特別休暇

これからも

できる人が、できる時に、できる事を





ご清聴ありがとうございました